

I. さけ・ます生活の場としての北洋の海洋学的諸問題

主催 水産海洋研究会
日時 昭和39年9月5日
場所 函館商工会議所

北洋におけるさけ・ます漁業に関する、基本的問題の調査は数多く行われて来たが、我々の知識は未だ十分ままとまっていらないように思われる。昭和38年12月、東京において漁業資源研究会議により、北洋のさけ・ますおよびカニの資源研究に関し、討議が行なわれた。今回水産海洋研究会が函館でシンポジウムを開くに当り、北洋の環境を討議の題目とすることとし、表記の題でシンポジウムを開催した。シンポジウムにおいては、北太平洋北部、ベーリング海、オホーツク海等で蓄積された海洋学的知識を、さけ・ます生活環境の解釈という立場から紹介し、さけ・ますの生活と生活背景としての海洋の環境をいかに関係づけるか、また資源利用度を大いに左右する海洋気象の研究をいかに進められるのがよいか等、水産海洋学研究の問題点を指摘し、討論を展開することとした。シンポジウムの企画、運営は金森政治(委員長)、元田茂、井上直一、黒木敏郎、三島清吉、西山恒夫、川村輝良、鈴木恒由、渡辺貫太郎、石田昭夫、大谷清隆(順序不同)等の協議により行なつた。なお本シンポジウム開催のために、多大の経済的援助を戴いた函館公海漁業株式会社、函館製網船具株式会社、函館商工会議所、北函造船鉄工所、宝幸水産株式会社、北海道漁業公社、日魯漁業株式会社、日本漁網船具株式会社、日本水産株式会社、大洋漁業株式会社各位の御好意に対し深甚なる謝意を表する次第である。

討論は次の順序で行われた。(元田茂記)

題目 1. 北洋の海洋物理環境

座長	東海区水産研究所	平野敏行
概説	北大水産学部	小藤英登
問題抽出	北海道区水産研究所	花村宣彦
討論		

題目 2. 北洋の海洋生物環境

座長	東北区水産研究所	辻田時美
概説	北海道区水産研究所	竹内勇
問題抽出	東北大学農学部	畑中正吉

討論

題目 3. 北洋の海洋気象環境

座長 函館海洋气象台 渡 辺 貫太郎

概説 函館海洋气象台 滝 波 千之介

問題抽出 日水捕鯨気象課 馬 場 邦 彦

討論

綜合討論

座長 東京水産大学 宇 田 道 隆

各題目の討論結果の概要

海洋物理環境 東海区水産研究所 平 野 敏 行

海洋生物環境 東北区水産研究所 辻 田 時 美

海洋気象環境 函館海洋气象台 渡 辺 貫太郎

討論

討論とりまとめ 座長 宇 田 道 隆

1. 北洋の海洋物理環境

概 説

小 藤 英 登 (北海道大学水産学部)

北方海域の海洋調査は、我が国でもはやくから水産関係の官庁、会社、学校および旧海軍水路部によつて行なわれてはいたが、その多くは非常に局地的なものであつた。それらの中には、水路部の駒橋、巖島、凌風丸等によるオホーツク海、北西太平洋およびベーリング海西部海域のかなり大規模な観測もあつて、相当の知識が得られていたようであるが、いずれも公表が避けられ一般の目には触れられなかつた。戦後、それらの観測資料が1951年現海上保安庁から公表され、次いで1954年農林技術協会の努力によつて、それまでのあらゆる資料をまとめて一括集成して出版されたことは、一般の北洋に対する知識を深めるのに大いに貢献したものである。

1952年北洋漁業が再開され、北太平洋漁業国際委員会は1955年以降、日米加3国の分担によつて北洋全域の海洋調査を継続することを申し合わせ、以来わが国では水産庁の計画のもとに実施されて来ている。